

全学就業力育成実行プロジェクトチーム

リーダー 柴 孝夫 様

全学就業力育成実行プロジェクトチーム

第3部会チーフ 河原地 英武

平成22年度 第3部会 活動報告書

次のとおり、部会活動を報告いたします。

1. 部会テーマ・概要

テーマ：就業力育成FD・SD——就業力育成のためのFD・SDの開発と普及——

概要：演習（ゼミ）等の活性化と活用、全教員の進路支援参画を図るための就業力育成に特化したFD・SDを実施する。さらにそのためのFD・SDの企画・立案・実施を担う。

2. 達成目標（完成年度まで）

年度末	達成目標
平成22年度	1. 部会メンバー内で「就業力」に関する認識の共有化を行なう。 2. 他の部会との関係の中で本部会の役割を明確化し、連携できる諸点を探る。 3. 主として本プロジェクトに関わる教職員を対象とし、就業力育成FD・SDに関する第一回研修会を実施する。
平成23年度	1. 主としてゼミ活動の活性化と、その就業力育成への活用方法について具体的な検討を行う。 2. 上の目的のために、教育支援研究開発センター高等教育調査・研究ワーキンググループが実施したアンケートの結果を分析し、教員のニーズや問題としている諸点を明らかにする。 3. 第1部会と連携し、ゼミ活動に関するアンケートの作成、及びその結果の分析を行なう。 4. ゼミ活動を通じて就業力育成を図るための具体的方途に関し、各学部（教授会等）で検討するよう働きかけるとともに、研修会、ワークショップ等を行う。
平成24年度	1. 前年度に続き、ゼミ及び専門教育における就業力育成支援の重要性に関し、教職員の意識が深まるよう、就業力に特化したFD・SD支援を行う。 2. 全教員がゼミ及び専門教育を通して就業力育成支援に参画したことを具体的に検証し得る方法を開発・策定し、数値化する。 3. 過去2年間の活動実績を踏まえ、各学部が自主的に就業力育成支援を授業に取り入れ、教員相互によるワークショップ等を実施できるような環境を整える。 4. 年度末には、3年間の活動を中間的に総括し、その成果と問題点を振り返り、新たな活動指針を明確化するための全学的シンポジウムを行う。
平成25年度	1. 他の部会と連携し、各部会の成果を集成し、キャリア教育研究開発センターとともに就業力育成のためのツールや教育方法をシステム化し構築する。 2. 本プロジェクトにおける教員参加率を100パーセントに近づけるべく、教員相互が支援できる体制を確立する。 3. このプロジェクトによって、平成22年度入学の学生の進路に具体的な成果が現れたことを具体的に示すことが重要である。
平成26年度 《最終》	1. 全専任教員が、何らかの形で就業力FDに参加したことを具体的・数値的に実証する。 2. 本学の体系的な学士課程教育構築の中に、就業力育成を然るべく位置づける。その上で、本学のFD・SDを単なる授業改善ではなく、就業力育成をその重要な要素とする学士課程教育構築に寄与する活動へと質的に引上げる。

3. 部会メンバー

部会チーフ：河原地 英武（外国語学部教授）

部会員：山上 敦士（理学部准教授）、福井 唯嗣（経済学部准教授）

オブザーバー：並松 信久（教育支援研究開発センター長）

4. 平成22年度(当年度)活動履歴

日付・時間・場所・参加者	活動内容
平成23年2月9日 18:00～19:30 教育支援研究開発センター長室 河原地、並松、山上、福井、松高、森、大西	・第3部会の第1回会議。 ・松高准教授を招請し、「就業力育成」の明確化、本プロジェクトにおける第3部会の役割等について説明を受けた。 ・その上で、参加者による意見交換を行い、当部会の活動方針について認識の共有化を図った。
平成23年3月8日 13:00～14:50 10506会議室 第1部会より佐藤、志賀、若松、小林、第3部会より河原地、福井、並松、森	・第1・第3部会による第1回合同会議。 ・「就業力」の意味についての確認。 ・第1部会・第3部会それぞれの取組内容について報告。 ・主としてゼミ活性化に関する意見交換。 ・今後の連携体制とその活動に関する申合せ。
平成23年3月9日 11:00～12:30 教育支援研究開発センター長室 河原地、並松、山上、福井、森	・第3部会の第2回会議。 ・第1・第3部会による第1回合同会議の振り返り（主として就業力の認識について）。 ・ゼミ活動と就業力育成の関連についての意見交換。 ・次年度以降の活動方針及び、そのためのチェックリスト（森氏作成）の活用法について。
平成23年3月28日 13:00～16:00	・羽根 拓也氏（株式会社アクティブラーニング代表取締役社長）を講師として「アクティブラーニングと就業力育成支援研修会」を開催。

5. 平成23年度(次年度)活動計画

- ・4月に行われる新規採用教員のFD研修において、就業力育成支援の取組に関する説明を行う。
- ・4月下旬に、第3部会の第3回会議を開催し、教育支援研究開発センター高等教育調査・研究ワーキンググループが実施したアンケートの結果を分析する。
- ・第1部会と連繋し、ゼミ活動に関するアンケートの作成、及びその結果の分析を行なう。
- ・ゼミ活動を通じて就業力育成を図るための具体的方途に関し、各学部（教授会等）で検討するよう働きかけるとともに、研修会、ワークショップ等を行う。
- ・3つのポリシー、カリキュラムマップ、授業評価アンケート、公開授業とワークショップ等、既に行われているFD活動と当部会の活動を有機的に結び付けていく。

6. 現状における課題

- ・当面はゼミ活動に焦点をあて、就業力育成とゼミを結びつける方途を探りたいが、学部ごとにゼミのあり方が異なること、すべての学生がゼミに参加しているわけではないこと、また、すべての教員がゼミを担当しているのではないことを考慮せねばならない。まずはゼミの実施状況が全学的にどのようなものであるのか知ることからスタートする必要がある。
- ・各教員がゼミ運営にあたっていかなる問題を抱え、また何を望んでいるのか、実状を把握することが肝心である。そのために第1部会と連携して行うアンケートが重要な意味をもつものと思われる。
- ・例えばゼミでフィールドワークを行うことが奨励されるが、一般に理解されるフィールドワークを行うことが不可能なゼミもあるだろう。従って、フィールドワークをもっと広義に解釈するか、もしくはフィールドワークに代替する活動をわれわれ部会として提示することが求められる。
- ・全専任教員を就業力養成FDに参画させるためには、学部によるイニシアチブが不可欠である。教授会等、学部の自主性を引き出すための議論の場を見出さねばならない。
- ・何をもちて全専任教員の参画といえるのか、具体的な指標を作らねばならない。できるだけ具体的なチェックリストを策定し、数値的にも検証され得る方法を開拓することが肝要である。

以上。